

## ロシア産木材の現況

1) ロシアのウクライナ侵攻に伴う追加制裁として、先日、日本政府は石炭の輸入禁止やロシア最大手銀行「ズベルバンク」(設立約 180 年と歴史の古い銀行で、日本では「ゆうちょ銀行」に似ている)の資産凍結が打ち出され、物資関連では、機械や「一部木材」を輸入禁止対象品目に盛り込むことを明らかにされた。それに先立ち EU は第 5 次制裁内容を決定し、対象品目は木材関連全般に及んでいた。

この「一部木材」に何が含まれるか、業界は騒然とし様々な憶測を呼んだが、その対象品目は、ロシアが非友好国に対する制裁品目としていた 3 分野 4 品目、つまりチップ(針葉樹とそれ以外の 2 品目)、原木、単板と同様となった。一般の製材品まで含まれるのではないかと業界で懸念されていたが、ロシア対抗品目と同等になったことで、関係者らは胸をなでおろしている。

この影響だが、チップは 1%程度、単板は輸入単板の 82%を占めるものの、国内流通の合板原料としては 2%程度であるといわれている。林野庁の試算では、この 3 分野で、106 億円相当の貿易額が一旦失われるといわれている。

尚、日本政府によるロシア単板輸入禁止決定を受けて、これまでロシア単板を使用していた合板メーカーに補助金を出すという政策が講じられるとの噂がある。

2) ロシアによるウクライナ侵攻の余波で木材価格の高騰につながり、住宅価格の値上がり各メディアで報道されている。ロシアの木材製品だけでなく、ロシアやベラルーシ、ウクライナから原材料を輸入していた欧州勢の提案価格も高騰する動きをみせている。

住宅向けでは、木材以外の資材価格も高騰する傾向を示す。ステンレスの原料の一部となるニッケル、住宅設備に欠かせないアルミニウムである。ロシア由来の比率はさほど大きくないとの見方もあるが、ロシア産の抜けた穴をカバーし得る供給ルートへの不安感から、価格の高騰を招くことは必至で、それ以上に資材不足に陥る可能性がある。

住宅消費者の所得は伸び悩み、市場金利は上昇基調。住宅価格の値上げが現実的になりつつある今、ロシア・ショックが引き起こす諸状況が日本を直撃している。

3) ロシアに対する貿易上の優遇措置「最恵国待遇」を撤回するための改正関税暫定措置法が本日、参院本会議で可決、成立した。公布後の翌日から関税率が協定税率ではなく、基本税率での申告となるため、4 月 21 日から適用となる。

・赤松/エゾ松プレーナー掛け完成品 : 4.8%→8%

・エゾ松原板、ラミナ : 4.8%→6%

・カラ松原板 : 6%→10%

・カラ松プレーナー掛け完成品 : 6%→8%

変更のないアイテムは :

構造用集成材 : 3.9%

赤松原板、レッドウッドラミナ : 4.8%

いち早く停戦し、ウクライナ市民が穏やかな生活を取り戻すことができるよう改めて切に願います。